

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	こどもプラス兵庫教室		
○保護者評価実施期間	令和 7年 12月 31日		～ 令和 8年 1月 31日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	26	(回答者数) 23
○従業者評価実施期間	令和 7年 12月 31日		～ 令和 8年 1月 31日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	5	(回答者数) 5
○事業者向け自己評価表作成日	令和 8年 2月 28日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	一日のスケジュールがわかりやすいため、子どもたちも見通しをもって過ごすことができる。	ボードや絵カードの活用をおこなっている。	・職員間の共有。 ・子どもがボードや時計を見ながら動く習慣を身につけられるように支援していく。
2	柳沢運動プログラムを用いた運動療育に力を入れており、毎日3種類の運動遊びと静かな活動をおこなっている。	・毎月ねらいを決め、その部分を強化することができる運動遊びを意識して取り入れている。 ・SNS等からも情報収集をおこない、マンネリ化しないよう、運動遊びのメニューに取り入れている。	職員全員が運動療育に携わることができるように、その日の運動遊びについて共有していく。
3	土曜日・祝日のイベントが充実しており、子どもたちがいろいろな経験をすることができる環境が整えられている。	・子どもたちからの意見を取り入れたり、季節を感じられるようなイベントを積極的に取り入れたりして計画をしている。 ・イベントに応じて起案書を作成し、スムーズな支援をおこなうことができるようにしている。	イベント作成時に他教室との交流や地域交流を意識し、社会性の育成につなげていく。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	平日は子どもたちの下校時刻にばらつきがあるため、日によっては子どもたちと深く関わる時間を確保することが難しい。	・配置は足りているが、職員の人手がもう少し必要。 ・多くの学校をまわるため、教室で子どもと過ごす時間が短い職員もいる。	・受け入れる学校の範囲を限定する。 ・子どもたちとかわる時間を確保するため、下校が遅い子どもの対応を交代でおこなう。
2	平日おこなう運動遊びの種類が偏ったり、時間が押してしまい自主活動の時間が少なくなってしまうことがある。	・運動療育の支援を必要とする児童への対応の強化。 ・運動療育をおこなう職員の時間配分に計画性が足りていないことがある。	・必要に応じて、難易度に変化をつけていく。 ・対応できる職員が少ない時は、サーキットでおこなうことのできる運動遊びを組んでいく。
3	身体障がい児への支援が事業所内ではおこなえない。	・子どもの怪我防止のため、つかまり立ちができるような手すりがなく、自身で歩行練習をすることが難しい。 ・運動遊び中も支援を必要とする場面が多いが、対応できる職員が一人の時は支援が難しい。	・体育館を利用する際に、手すりや歩行器を利用して歩行練習をおこなっていく。 ・対応できる職員数に応じて運動遊びを組み、職員が一人の場合は、子どもが一人で取り組めるものを取り入れたり、やり方を工夫したりして支援していく。